

## 在外日本古美術品保存修復協力事業 (②修04-07-2/5)

### 目 的

海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。平成3年度から絵画を対象に事業を進めてきたが、平成9年度から工芸品など欧米の修復技術では修復の困難な分野にも協力対象を拡げた。

本事業では立案のために、欧米の美術館、博物館にて作品調査のほかに修復技術に関する討議を行い、併せて輸送手続きに関する協議を行っている。また、修理内容の検討、修理作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。

この修復協力事業が契機となって、国内外で所蔵の日本古美術品に対する関心が新たに高まりつつあり、日本古美術品を所蔵する博物館の間でネットワークが構築されつつある。さらに、文化財保存の専門家の交流も促進され、わが国の文化財修復技術の普及と理解に対し効果をあげている。

### 概 要

平成19年度は、11館13点の作品を修復した（うち3点が18年度からの継続、2点が海外での修復（◆印））。

#### <絵画>

- 1) 「日吉山王祭礼図屏風」 6曲1双 ヒューストン美術館
- 2) 「多武峯維摩会本尊図」 1幅 キンベル美術館
- 3) 「釈迦十六善神像」 1幅 オーストラリア国立美術館
- 4) 「花鳥図屏風（波月等薩筆）」 6曲1双 ビクトリア国立美術館
- 5) 「阿弥陀三尊来迎図」 1面 チューリッヒ・リートベルク美術館（2年計画の2年目）

#### <工芸品>

- 1) 「花卉螺鈿ライティングビューロー」 1基 クラコウ国立美術館（2年計画の2年目）
- 2) 「楼閣山水螺鈿筆筒」 1合 キョッソーネ東洋美術館（2年計画の2年目）
- 3) 「源氏九曜紋蒔絵箔箱」 1合 フレンツ・ホップ東洋美術館
- 4) 「楼閣山水蒔絵箱」 1合 オーストリア応用美術博物館（2年計画の1年目）
- 5) ◆ 「花樹鳥獸蒔絵螺鈿洋櫃」 1合 ケルン東洋美術館（3年計画の2年目）
- 6) ◆ 「月琴」 1挺 ウィーン国立民族学博物館

平成19年度、絵画の事前調査ではローマ国立東洋美術館3点、キョッソーネ東洋美術館3点、アシュモリアン美術館10点、ビクトリア&アルバート美術館7点、ベルン歴史博物館2点、イエール大学美術館9点、ブルックリン博物館6点、バンクーバー博物館1点、グレーター・ビクトリア美術館2点の調査を行った。また、工芸品はビクトリア&アルバート美術館5点、アシュモリアン美術館9点、市立ヴェルケ・メディジチ博物館9点、フラノフ城9点、レドニツェ城9点、モラビア美術館3点の調査を行った。平成18年度修復完了品を東京国立博物館において展示し、その修復成果を一般に披露した（5月15日～27日）。また、平成18年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

**調査・研究報告書等刊行数** 1件：『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成19年度（絵画／工芸品）』 229p 東京文化財研究所 08.3

### 研究組織

○川野邊渉、中山俊介、北野信彦、加藤雅人（以上、保存修復科学センター）、永井義美、後藤嘉信、佐野智典（以上、管理部）、中野照男、津田徹英、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、城野誠治（以上、企画情報部）、清水真一、稲葉信子（以上、文化遺産国際協力センター）